





## ポイント

・自分にして欲しいことや必要なことを頼むときは、相手の顔を見て丁寧に話します。

## キーワード

必要、して欲しいこと

## 行動目標

1. スキルの練習をしているときに、自分にして欲しいことや必要なことを頼めること

## このテーマの大切さ

子供にとって、必用なときに自分で誰かに手伝いを頼めることはとても大切です。そのためには、はっきりと丁寧に話すことが求められます。

積極的に自分の考えをはっきり話すと、友だちとうまくつきあえます。

## 留意点

自分でやってみて、うまくいかないことは、友だちに手伝ってもらい、それでもできないときに大人に頼むように促します。また、聞き手が自分に話されていることが分かるように、相手の顔を見て話すことも大切です。

## 毎日スキルを使いましょう

どんなときに手伝いが必要か、またどのように頼めばよいかを、子供が**事前に考える**ようにします。

子供がきちんと手伝いを頼んだときに注目し、具体的なフィードバックをして、子供の行動を**強化**します。先生の顔を見て、**はっきりと分かりやすく頼めました**。先生は、**あなたが何をしたいのか、すぐに分かりましたよ**。

- ・手伝いを頼むときのモデルを見せます。
- ・必要に応じて、手伝いを頼むことを子供が思い出すようにします。

手伝いが必要なときに何をしたかを、子供が**振り返る**ようにします。

## 第1日目 人形劇

用意するもの：男の子と女の子の人形、絵筆

先生：先週は、先生の言葉を何度も自分に話したね。それで覚えていました。あら、お友だちの声が聞こえる。何を話しているのかな。

女の子の人形が絵筆を手に持って、絵を描くふりをする。

女の子：あとは木の上の葉っぱを塗れば、できあがり。女の子、きょろきょろと周りを見回す。大変！ どうしよう。

男の子：どうしたの？

女の子：緑の絵の具がないの。葉っぱが塗れないわ。

男の子：一緒に探してあげるよ。2人で一緒に探す。

男の子：無いなあ。先生に頼んでみようか。

女の子（迷いながら）：どうしよう。私、頼めない。

男の子：大丈夫だよ。先生が助けてくれるよ。先生に「緑の絵の具を探してください」って言ってごらん。大きな声でね。

女の子：わかった。先生を見て、大きな声で頼むのね。自分に話して、覚えようっと。女の子が自分に話す様子が子供に見えるように、人形の頭を動かす。

女の子（先生を見て、はっきりと丁寧に）：今、木の絵を描いているの。でも、緑の絵の具が見つからないの。一緒に探してください。

先生：\_\_\_\_\_さん（女の子）、よく言えたね。先生は、何をしたらいいか、すぐに分かりました。戸棚から緑の絵の具を取ってあげましょう。その日、どんな場面で先生の手伝いが必要と思うか、子供に聞く。



「おぼえよう」の5番「いっしょに歌おう」の7曲目を歌う。歌詞は「指導の手引き」を参照。1番から4番も歌う。その週の間、もう一度歌う。



当日中に「指導の手引き」の頭の体操「ストップのポーズ」のゲームを1～2回行う。ゲームに必要なシンボルも「指導の手引き」に載っているので、事前にコピーしておく。その週は毎日行う。

## 第2日目 お話とディスカッション

昨日は、\_\_\_\_\_さん（女の子）がお絵かきをして、緑の絵の具を探して欲しいなと思いました。\_\_\_\_\_さん（男の子）と一緒に探しましたが、見つかりませんでした。そこで、\_\_\_\_\_さん（女の子）は誰に手伝ってもらいましたか？（例：先生）

\_\_\_\_\_さん（女の子）は、先生に頼むのは恥ずかしいなと思ったけれど、\_\_\_\_\_さん（男の子）が、「先生を見て、大きな声で言うんだよ」と教えてくれたので、うまくいきましたね！先生は、\_\_\_\_\_さん（女の子）が何をしたいのか分かったので、絵の具を探しました。



グロリア

写真を見せる。内容を1つひとつ指して、何が見えるか、どんなことが起きているか、写真の子供がどんな気持ちかを子供に聞く。

この子はグロリアさんです。先生が「外に行きましょう」と言いました。グロリアさんは、ジャンパーを着て、ファスナーを上げようとします。でも、うまくいきません。グロリアさんは困っていました。ジャンパーのファスナーをあげてもらいたいと思っています。

1. グロリアさんは誰に手伝ってもらえるかな？ 考える時間を与える。何人かの子供を指す。（例：先生、友だち）
2. 手伝って欲しいとき、グロリアさんはどう言えば良いかな？（例：「手伝ってください」と言う。大きな声で言う）
3. 手伝ってくださいと言うとき、先生を見た方がいいかな？ そう思う人は手を2回たたいてね。

誰かに手伝って欲しいときは、その人を見て、言います。子供1人ひとりが隣の友だちを見て、「手伝ってください」と頼む練習をする。

手伝って欲しいときは、「手伝ってください」と言きましょう。

## 第3日目 スキルの練習1

おもちゃを渡す（小グループ、行動目標1）

用意するもの：お手玉などの小さくて柔らかいおもちゃ

1. 子供は輪になって座る。先生はゲームの説明をする。輪になって、お手玉を速く隣のお友だちに渡してみよう。隣のお友だちからお手玉をもらう前に、みんなは「お手玉をください」と言います。そしてお手玉をもらったら、「ありがとう」と言います。
2. 先生は隣の子供と一緒に、お手玉を渡すモデルを見せる。
3. 丁寧に頼んだ子供に注目し、強化する。「\_\_\_\_\_してください」と頼みましたね。「ありがとう」と言えましたね。
4. 渡すおもちゃの種類や回す方向を変えて、数回ゲームを行う。また頼むときの言葉を増やして言う。（「赤いふわふわのボールをください」「青いクマのぬいぐるみをください」）

## 第4日目 スキルの練習2

手伝いを頼む（大グループ、行動目標1）

用意するもの：男の子の人形

1. 子供は輪になって座る。先生は手伝いを頼む練習の説明をする。これから\_\_\_\_\_さん（男の子）が、手伝って欲しいことを頼みます。
2. 先生は下にある最初の場面を読み、人形を使って実際にやってみせる。（男の子）靴のひもを結ぶのを手伝ってください。
3. 子供全員で男の子の言ったことを繰り返す。
4. 他の場面についても同様にやる。
5. それぞれの場面で、言い方を強化する。「\_\_\_\_\_してください」と頼んでいたね。
6. 新しい場面を何種類か用意し、子供1人ひとりが手伝いを頼む練習をする。

場面

- ・靴のひもを結んで欲しい。
- ・ジャンパーを着せて欲しい。
- ・本を探して欲しい。
- ・箱を開けて欲しい。

## 第5日目

今週のテーマに関連した本を読む。

- 「こすずめのぼうけん」 ルース・エイズワース著、石井 桃子訳、福音館書店
- 「うさぎさんてつだってほしいの」 シャーロット・ゾロトウ著、こだま ともこ訳、富山房
- 「おかあさんだいすき」 マージョリー・フラック著、光吉 夏弥訳、岩波書店
- 「サラダでげんき」 角野 栄子著、福音館書店



「指導の手引き」にある今週の「家庭への通信6」を各家庭に配布する。